



東西しらかわ小学校長会 広報部

第 9 号 令和4年 7月 6日
 発行人 会 長 井上 久仁夫

助け合い、連携してよりよい学校経営を

東西しらかわ小学校長会長 井上 久仁夫
 (白河市立白河第二小学校長)

今年度、本支会は1市4町4村34名の会員で組織されています。昨年度末に信夫一小・信夫二小・大屋小が統合し、大信小学校として新たなスタートを切りました。会員は、2名減となりましたが、新任者9名を含む12名の新会員を迎え、支会としての活動をスタートさせることができました。

さて、世界に目を向けてみると、終わりの見えない戦争が続き、日々生命の危機を感じて生活している国々がありますが、学校現場での感染症との戦いも未だ先が見えません。感染予防策による影響が、学習活動の制限・体験活動不足・運動量の低下等、様々なところに現れ始め、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。

この2年あまり、私たちは地教委の指導を受け、みんなでアイデアを出し合い、連携を深めながら「子どもファースト」という共通した理念に立ってそれぞれ工夫した教育活動を進めてきました。振り返ってみると、ICT導入による授業改善はもちろん、このピンチを教育活動見直しのチャンスとして捉え、カリキュラムマネジメントや働き方改革の視点から、様々な変革を断行した学校もあります。

各校において、教職員が一丸となりこの危機を乗り越えようと日々努力してきたことは、職場のよい風土作り・同僚性の高まりに寄与した部分も

あるのではないかと思います。校長先生方が自分の学校の職場風土・同僚性を評価する時、何を根拠にどんな観点で評価するのでしょうか。

一例を挙げてみると、職場の「同僚性」の概念については、研究(2020年 西永・藤原)により次の8つの観点到に整理され、紹介されています。

- | | | |
|---------|----|---------------------------|
| 1 「共感性」 | …… | 相手の気持ちにより添う関係 |
| 2 「節度性」 | …… | なれ合いにならない関係 |
| 3 「真摯性」 | …… | 共に誠実に職務に取り組む関係 |
| 4 「連携性」 | …… | 相談し、連携し合う関係 |
| 5 「建設性」 | …… | 建設的な議論ができる関係 |
| 6 「進歩性」 | …… | 組織の活性化を図る関係 |
| 7 「互助性」 | …… | 助け合い、問題や悩みを軽減
・解決できる関係 |
| 8 「快適性」 | …… | 喜びを共有する和やかな関係 |

上記8観点を自校の同僚性を振り返ってみると、強みと弱点が見えてきます。また、組織の中でそれぞれの雰囲気作りに多大な貢献をしている教職員も見えてきます。

教職員のメンタルを支える『1共感性』『4連携性』『7互助性』についてみてみると、教師は「共感し、相談を受ける」力を身に付いていることが多い反面、いざ悩みを抱えた時に自分から「相談」することが苦手な人が多いというデータもあります。その要因としては、自分の力量不足と思われる不安や多忙化の中での遠慮などがあげられています。また、プライドが邪魔をして相談できないといった自尊心の問題、コミュニケーションスキルの問題も指摘されています。私たち管理職には、教職員1人1人の特性をしっかりと捉え、相談することが苦手な人も多いことを理解し、コロナ禍で減少した懇親の場を意図的に設定するなどの工夫が求められていると思います。

名城大学院の木岡一明教授は、「理想の学校組織は『石垣』のような組織」といっています。石垣は、一見バラバラな形や大きさの石が組み合わさっていますが、それぞれがバランスをとり、力を分散させているからこそ何百年も崩れないのだそうです。学校組織も、そして本支会も石垣のような組織でありたいと思います。気軽に相談し、助け合い、連携しあってよりよい学校経営をしていしましょう。1年間よろしくお願いたします。

大木のように

マージナル・ゲイン

白河市立白河第四小学校長 舟木 裕子

4月中旬。赴任した白河第四小学校の校庭の桜が見事に咲きほころびました。満開の桜の木の下で喜々として遊ぶ子ども達。子ども達の「校長先生、こんにちは。」という元気な挨拶を聞きながら、ゆっくりと校庭を歩くと、なんと大木の多いこと。サクラの木もさながら、スズカケ、ネムノキ、ケヤキ・・・見事なまでの大木がまっすぐに空に向かって伸びているではありませんか。大木たちの幹は太く、枝はしなやかに伸び、少し控えめに葉を揺らしながら、“子どもたちにとって、楽しく学びがいがある学校を目指してがんばってくださいね。”と未熟な私に語り掛けているようでありました。

5月。葉桜の頃が過ぎ、新芽が一気に芽吹き、校庭の周りの木々は青々しさが増してきました。子ども達の運動会での応援合戦の堂々とした声を聞いていると、教職員が「校長先生、白河四小の子ども達は、素直で何事にも真剣に取り組むことができる、そして優しい子ども達なのです。」とそっと教えてくれました。

6月。大木たちは既にそこに居るのが当たり前だというように、5月にも増して堂々とそびえ立っています。緑の葉は青々と生い茂り、枝は、雨に打たれてもたおやかに力強く、いつにも増して自慢げに。朝夕、横断歩道に立ってくださる見守り隊の方が、「校長先生、毎日、白河四小の元気な子どもたちから、私達は元気をもらっていますよ。」と、私に笑顔で話してくれました。

この地域、子ども達、教職員のために、私は強く思うのです。

『大木の幹のように、まっすぐにぶれない校長でありたい、大木の枝のように、たおやかに、あらゆることに柔軟に対応できる校長でありたい。大木の葉のように、子ども達の心を揺さぶることのできる校長でありたい。そして、大木のようにまっすぐに白河四小を成長させていきたい。』

若輩者の私ですが、懸命に努力してまいりますので、校長会の皆様、ご指導をどうぞよろしくお願いたします。余談ですが、4月には白河四小に花見にいらしてください。満開の桜の大木たちが出迎えてくれます。

白河市立小田川小学校長 渡邊 誠

6年ぶりの県南地区での勤務となり、私は感激しております。派遣教員として3年間、棚倉小学校に在籍していましたが、東西しらかわ小学校長会の皆様には、当時から多くの示唆に富むご指導を賜り、深謝しています。特に、教頭昇任に向けての面接練習では、夕方以降の遅い時間帯にもかかわらず、白河第二小学校にて親身になってご指導を賜りましたことは貴重な財産であり、今も鮮明に覚えています。そんな私が、先日、東西しらかわ小中学校教頭会の実務研修会の講座を担当させていただきました。

さて、本県では、令和4年度より「学びの変革推進プラン」がスタートしました。特に、施策2「学校の在り方の変革によって教員の力、学校の力を最大化する」に着目してみると、ここ数年来、各校では、「働き方改革」が進められてきました。本校でも同様で、「無理・無駄の削減」「学校行事や教育活動の精選」等、今年度の教育課程に反映されています。

一方、最も大事にしなければならぬことは、「子どもファースト」の考え方だと思っています。教師には、困難であったとしても、時間がかかるものであったとしても、やらなければならない仕事があります。そこは教師の仕事の生命線ですが、「働き方改革」という看板のもと、困難や時間がかかるという理由だけで、スクラップされている業務がないかどうか、校長として見極めていきたいと考えています。併せて、子どもたちにとって、本当に必要な教育活動であるかどうかという教育効果を全職員で十分に検討していきたいと思っています。

「やらないよりはやった方がいい。」もちろんそうです。誰かが受益者になるのですから。しかし、時間も資源であり、新旧様々な業務との兼ね合いの中で、「時間対効果」はどうかを考えてみる必要もあります。私は、これからも「小さな改善の積み重ねによる大きな目標達成(マージナル・ゲイン)」を続けていきます。

東西しらかわ小学校長会の皆様には、今後ともご指導ご助言をいただきますようお願い申し上げます。

気持ち新たに 本日は誕生日

解り合うこと

西郷村立川谷小学校長 児玉 剛明

今回の人事異動で、初めて小学校に勤務することになりました。今、現在でもそうですが、採用校種である中学校との違いをあらゆる場面で感じています。

着任すると、大変まじめな先生方、純粋な子どもたち、あたたかい保護者の方々、何かあったらすぐに駆け付けてくれる地域の皆様との出会いが待っていました。日々、自身の責任の大きさをひしひしと感じているところです。

本校の入学式は、小学校と中学校、合同で実施します。6歳の新生生にも分かり、12歳の新生生の心にも響くような式辞とはどんなものだろうかかなり考え込みましたが、その時間は、なぜか楽しく、ワクワクするものでした。

式当日、目をキラキラさせた5名の小学1年生、そして、緊張感を漂わせた10名の中学1年生の入場を見ながら、私は自然と笑顔になりました。あれから毎日、子どもたちに感動させられています。学校ではとことん自己肯定感を高めてあげたい、そう思って学校経営に当たっています。

初めての校長職、小学校勤務、中学校長との兼務…と戸惑うことは少なくありませんが、初めてだからこそ自身の感性に触れることがあると思っています。学びの主体である子どもたちを主眼に置き、小中一貫で行う義務教育9年間のすべてを、365日、見て、考えて、実践して、そして、さらなる高みに到達できるように改善を図る。素晴らしい機会を与えていただいたと思っています。

本校に集う子どもたち、先生方、保護者や地域の皆様にとって、充実した日々が送れるよう、一丸となって誰一人取り残さない学校づくりに邁進していきたいと思います。

東西しらかわ小学校長会の先輩方には、常々、様々な面で温かく貴重なご助言をいただき、感謝の言葉しかありません。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

最後に余談を少し。本日7月6日は私の誕生日で、今年は阿武隈川を通じて交流している仙台市立荒浜小学校を本校にお迎えしての出会いの会が予定されています。これまで以上に、思い出に残る52回目の記念日になりそうです。

白河市立表郷小学校長 佐藤 康二

33年間の教師人生において、2回勤務した学校が2校ある。一つは、教諭として7年、教頭として4年勤務した白河第一小学校。もう一つが、教諭として5年、そして、この4月から校長として勤務している表郷小学校である。

どちらも、以前勤務したことで、その時の保護者や地域の方々とのつながりがあり、2度目には大変ありがたく感じた。そこで、改めて思ったことは、やはり、学校という職場、教師という職業は、保護者や地域の方々に支えられているということだ。学校が保護者や地域のことを考えずに、独自に行う教育活動はあり得ないし、そういう活動は、結果的に子どものためにならないのかもしれない。学校がどういう教育をしようと考えているのか、保護者や地域の方々には理解してもらい必要がある。コロナ対応も同じだ。学校として、どういう対策をし、状況の変化にどう対応していくのか、事前にお伝えし、理解してもらえれば、どう状況が変わろうとも、バタバタしない。そういう関係を築くことで、地域と共に充実した教育活動ができるのだと思う。

そして、常々、先生方にも言っていることは、保護者は我々の敵ではないということ。むしろ、逆で、子どもの健やかな成長という、共通の目的を持った同志であるということ。そういう認識で保護者と向き合うと、必要なのは、お互いの思いをしっかりと伝え合うことだと気付く。子どもへの指導の意図を誤解されては、不信感につながり、逆に、理解してもらえれば応援して頂ける関係になる。

それは、保護者だけの話ではなく、教師と子どもたちの関係も同じだ。4月に出会い、それぞれがお互いのことを知り、理解し、どういう思いで、日々過ごし、これからどうしていきたいと考えているのか、そういうことを6週間かけて解り合うことで、目指す学級作りのベースが築かれ、そこで行われる授業作りの核ができる。だから、そういう関係作りを抜きにしては、何もうまく行かないということ、先生方には伝えている。それは、校長として、先生方との関係作りに努力しているか、という自戒を込めてである。

「みんな笑顔の学校」を目指して

あかるく やさしく めあてをもって

白河市立釜子小学校長 大西 健夫

「白河市立釜子小学校です。」

赴任先を告げられ、とても不安になったことを今でも覚えています。初めての小学校、初めての県南地区、そして初めての単身赴任と「初めてづくし」の校長職拝命でした。

「最初の職員会議で何を話そうか」

「子どもたちとの関わりはどうしたらいいか」など、不安ばかりを考えていたところ、以前教頭として仕えていた校長先生からメールが届きました。そのメールには

「大丈夫！気負わず自然体で。」

「校長職を楽しんで！」

とのメッセージ。そのメッセージのおかげで一気に肩が軽くなりました。

職員会議では、「自分の弱みは小学校勤務が初めてであること、強みは義務教育のゴールの姿を知っていることです。だから弱みの部分は先生方の力を貸してほしい。」と先生方に伝えました。子どもたちには、「校長先生はあいさつができる子が大好きです。あいさつは苦手だけどがんばってあいさつをしようとしている子も大好きです。」と伝えました。「知らないおじさん」だった私も今では「校長先生」と認識されつつあり、子どもたちも元気にあいさつできるようになっています。

本校では、「子ども、保護者、地域、教職員 みんな笑顔の学校」を目指して教育活動に取り組んでいます。先生方には迷ったり、悩んだりしたら「みんな笑顔」になれるかどうかを判断基準にしてみたら、と話しています。四者が同時に笑顔になることは難しいかもしれませんが、やはり目指すべき目標としたいと考えています。

先生方と対話をし、本校の強みや弱みも見えてきました。学区内を歩いたり、地域の皆さんと対話をする中で釜子小や児童に寄せる思いを感じることができました。少しずつではありますが、保護者や地域の皆さんと協働して取り組み始めています。これからも「子ども、保護者、地域、教職員 みんな笑顔の学校＝地域と共にある学校」を目指して、微力ながら努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

中島村立吉子川小学校長 酒井 賢司

私の校長としての1日は、学校の周りの田園風景の移ろいを五感で味わい、清々しい気持ちで朝の交通指導をすることから始まります。

子どもたちの「安全な登校」のために行っている朝の交通指導ですが、地域の様々な方から声をかけていただけるようになりました。「学校から歩いてくるのは大変だから、車で来てうちの駐車場に車をとめていいよ」「新しいバイパスができたから、あの班の通学路は変えた方がいいよ」「今度の運動会、入場制限があるようだけれども、孫の最後の運動会だから、何とかならないかね」「このあたりの田んぼ、使ってもらってもいいよ」等々…、本当にたくさん声をかけていただいています。全ての言葉に応えることはできませんが、地域の方々が学校へ寄せる思いや気持ちを聞くことができる貴重な時間、学校経営上の大きなヒントをいただくよい機会となっています。

本校の校歌や校章、教育目標、学習発表会の名称等、あらゆるところに「あやめ」が登場します。先日は地域の方より「学校にあやめを寄贈させてください」との申し出をいただきました。校地にあやめは植栽されているものの、わずかな株数。ありがたい申し出をお受けすることにしました。すると早速、地域の方々が数名で来校し、あやめを植える場所の草取り等の下準備から植栽までを手際よく行ってくださいました。あやめのお礼とご自宅を訪問しようとしたところ、自宅の外壁に「吉子川小 運動 勉強がんばれ」との立派な横断幕が掲げられていました。校長として、学校を応援してくださる思いに感謝するとともに、しっかりと応える学校経営をしていかなければならないとの思いを、改めてもつことができました。

新型コロナウイルス感染症への対応はまだまだ油断ならない状況が続きますが、1日でも早く、コロナ収束の「よい便り(あやめの花言葉)」が届くことを心より願っております。

東西しらかわ小学校長会の皆様には、何かとお世話になります。地域の子子どもたちが希望をもって学校生活を送れるよう尽力したいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

3か月を過ぎて思うこと

認め合う 学び合う 鍛え合う

矢吹町立中畑小学校長 渡部由美子

4月から校長職としてのスタートを切り、自分の立ち位置に日々戸惑いながら、3か月が過ぎようとしています。

毎朝、校門前の横断歩道で子どもたちの登校を見守ってくださる地域の方がいることを心強く感じながらスタートを切った4月。

運動会前の環境整備として行われた奉仕作業。雨のため草刈りができず、学校内の窓みがきになってしまった時、奉仕作業終了後に、PTA役員の方から、

「草刈りも必要ですよ、役員中心にボランティアを募って明日の朝やります。」

とのお言葉をいただき、子どものため、学校のために、協力・労力を惜しまない保護者の方々に支えられて学校経営が行える幸せと喜びを感じた5月。

そして、運動会や鼓笛パレード、えとの森マラソンや600m走記録会など、それぞれの行事に向けてしっかりと目標を立てて真剣に臨む子どもたちの姿に、「自分も目標をしっかりとってがんばらなければ」とより一層のやる気を掻き立てられた6月。

この3か月間の様々な出来事を通して、とても真っ直ぐで一生懸命な子どもたちと、協力的な保護者・地域の方々のために、自分にできることは何かを常に考え、行動していかなければならないと思いました。

その第一歩として、まずは、これからの未来を担う子どもたちが、変化に柔軟に対応し、未来を切り拓くたくましさを身に付けることができるよう、子どもたちが主体的に活動し、活躍できる場をたくさん作りながら、子どもたちを認め、励まし、寄り添う姿勢でかかわっていく学校経営を行っていかれたらと思っています。

そして、様々な経験を通して得た自信を胸に、失敗を恐れずチャレンジし続ける子どもたちを育んでいきたいと思っています。

末筆ながら、この3か月、わからないことや戸惑うことに対して、優しくご助言くださいました校長会の皆様へ感謝いたしますとともに、今後ともご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

矢吹町立善郷小学校長 高木 徹

「認め合う 学び合う 鍛え合う 感性豊かな善郷っ子」これは、善郷小学校の教育目標です。

私は、この教育目標の中の「合う」という言葉が、学校教育の大切な部分を表現していると思います。コロナ禍の中、子ども達が学校に来られない期間があり「学校」の大切な役割が改めて確認されました。それは、多様な個性や価値感を持った子ども達が互いに学び合い、共に教育活動を行う中でたくさんの経験を積みながら、心身共に育っていくことです。

「合う」という言葉は、一人では成立しません。自分以外の相手がいて、初めて成立する言葉です。友だちと一緒に学ぶことができる場所が学校であり、みんなと一緒に学ぶからこそ高められる学びがあるのです。そのことを大切にしながら、善郷小学校の教育目標の具現化に向けて、教職員と子ども達、保護者や地域の方々とともに頑張りたいと思います。

また、善郷小学校のめざす子どもの姿は「笑顔であいさつ、気づき、考え、行動できる、感性豊かな子ども」です。気持ちの良いあいさつが学校の文化となるように、日々頑張っています。ある日、あいさつがよくできる児童に「なぜ、そんなに上手にあいさつができるの?」と尋ねたところ「あいさつをすると気持ちが良くなります。あいさつをしないと落ち着きません。信用がなくなるような気がします。」という答えが返ってきました。この児童にとって、あいさつはすでに文化となっていると感じました。児童の中には、「高木徹校長先生おはようございます」と名前を呼んであいさつができる子もいます。あいさつは、コミュニケーションの始まりとも言われます。気持ちのよいあいさつは、社会人としてよりよく生きるために必要なことでもあります。

気持ちのよいあいさつを交わし合える、みんなで学び合い、高め合い、鍛え合える、笑顔あふれる善郷小学校をめざして学校経営を進めていきたいと思います。よりよい善郷小学校をつくるためにも、東西しらかわ小学校長会の皆様からのアドバイスをいただき、協力し合って学校経営を楽しみたいと思います。

泉崎第一小学校に赴任して

出会いに感謝

泉崎村立泉崎第一小学校長 原田 知幸

新任校長として北会津地区に赴任し、3年間の勤務を経て県南地区に参りました。東西しらかわ校長会には、かつて同じ学校で勤務をしたり、小教研等でお世話になったりした先生方も多く、温かく迎え入れていただきましたことに心より感謝しております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

泉崎村では「泉崎っ子宣言」を掲げ、幼稚園、小学校2校、中学校合わせて3校1園が連携して教育を進めています。

泉崎一小は児童数202名、創立148年の伝統ある学校です。集団登校では、1年生の歩調に合わせて班員がゆっくり歩き、元気にあいさつをしています。交差点で止まってくれたドライバーには班長が深々とお辞儀をして列に戻ります。また、村の敬老会で組織する「スクラム隊」の皆様は、子供達の登下校の見守りに当たってくださいています。学校から離れた現場での子供達や地域の皆様の姿からも、村全体としての取り組みが根付いていることを実感しています。

「泉崎っ子宣言」

- (い) いつも元気に 笑顔であいさつします!
- (ず) ずっとみんなで仲良く 助け合います!
- (み) 自ら学び よく考えます!
- (ざ) 最後まで あきらめないでがんばります!
- (き) 絆を深め ふるさとを大切にします!

校長室には、明治31年よりお勤めになった第4代校長を始め、40人の歴代校長の顔写真が掲げられています。“先輩方”の写真を見ながら、ふと「校長は方針を示し、あとは先生方に任せる。

(校長の) 存在感はなくていい。」と言葉をくださった先輩の校長先生を思い出しました。その言葉には“教育目標達成に向けて先生方、子供達、地域のよさを引き出し、どうマネジメントして学校運営をしていくかは校長次第”という意味を伏せ込んで教えていただいたのだと思っています。令和の今日まで“先輩方”が引き継ぎ、築き上げてきた歴史の重みを感じつつ「誰もが通いたい・通わせたい学校」づくりを目指していきます。

泉崎村立泉崎第二小学校長 黒澤 謙悟

今更青臭いことを言うようですが、管理職になっていなかったらこれほど多くの人と出会うことや違った環境で仕事をするとはなかったと思います。美術教師は、小規模校への異動が困難で、ほぼ大規模校か中規模校を異動し、へき地経験もなかなかできません。そんな中、新任教頭で赴任したのはある地区の中学校併設の小さな小学校でした。児童生徒数一桁という学校は、中学校美術教師では経験できない学校でした。ここでは、児童生徒、地域の方々はもちろん、校長先生はじめ多くの先生方との出会いとともに、同じく昇任してきた教頭同士の出会いもありました。特に、事務職未配置校の教頭先生方とは、互いの苦労を分かち合える同志でした。また、事務職が未配置のために、お世話になった事務研の方々との出会いも視野を広げる大きな出会いでした。

そして、今年度新任校長として、ここ県南の地でお世話になることになりました。初めての県南地区、そして、新任教頭以来の小学校。また多くの方々との出会いの機会を頂きました。

今いる泉崎村は、古墳などの遺跡が多く、古くから人々が生活していたことがわかります。特に、関和久官衙遺跡からは、1300年前から約250年にわたって郡役所が置かれていたことがわかる由緒ある土地です。そして、泉崎第二小学校には、子どもたちのために日々生懸命に教育活動を行う先生方、純朴で素直な子ども達、温かく協力的な保護者、地域の方々があります。この新たな出会いにも感謝したいです。

このようにしてみると、今の自分があるのは多くの人たちとの出会いからよい影響を受け、その時々支えてくださった方々がいて頂いたお陰だと改めて感じます。こんなに有り難いことがあるだろうか最近しみじみと思います。これからは、この県南の地で、新たな出会いの中から自分ができることは何かを日々考え、実践していくことが、自分に与えられた使命あると感じています。校長という立場で、どれだけのことができるかは分かりませんが、何かしらのよい影響を残すことができるように努力していきたいと思います。今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。

「地域を知ること」

棚倉町立社川小学校長 数間 浩行

「毎朝子どもたち、元気に挨拶してくれるんよ」
「毎年、運動会で校歌を聴くのが楽しみで。今年の運動会は鼓笛もやりますか？」登校班の集合場所に向かう途中、地域の方に声をかけられる。月に一度、黄色の旗を持ちながら登校班に加わらせてもらっているが、車の風圧、風の匂いや強さ、地域の見守りボランティアのありがたさ…様々なものを体感することができる貴重な時間だ。「おはようございます。今日は福井(地区名)まで来ちゃった。一緒に登校させてね。」屈託のない笑顔で応えてくれる子どもたちとたわいもない会話をしながら歩く30分間は、私にとって、なくてはならないものとなっている。

再び棚倉町に赴任するにあたり、諸先輩方から多くの言葉をいただいた。「立場が異なれば、見えてくる物が違ってきます。前回の経験を生かして力を発揮してください。」「地域を知ることが大切。棚倉の歴史を調べ、地域の方とたくさん会話をしてみなさい。」「毎朝同じ場所で立哨指導することも大切だが、登校班に交ざって一緒に歩くと様々なことが見えてきます。」…今見る社川地区の空の青が、棚倉中勤務時代に見えていた空の青とは少し違って見える理由は、諸先輩方からいただいた言葉の中にヒントが隠されているのかもしれない。毎朝の30分間は、各地区の特徴や校舎外での子どもの姿、地域の方々の温かさ等を肌で感じる時間であり、先輩方のお言葉が心底身にしみる時間でもある。

昨今、「地域と共にある学校づくり」が注目されている。これからの厳しい時代を生き抜く力を育成するために、本校では、本年度育成すべき資質・能力を「かかわる力」(人間関係形成・社会形成能力)「ふるさとを愛する力」としている。学校と地域とが連携・協働を図りながら資質・能力の育成を図り、「ふるさとを支え、たくましく生きる人材の育成」に尽力していきたい。「玉野の堰にさらさらと 流れてつきぬ社川 ゆたかにみのるふるさとの 恵みの土に風かおる」本校校歌の一節である。諸先輩方にご指導いただきながら、さらに地域を知り、地域とともに歩んでいきたい。

鮫川ならではの学校経営を目指して

鮫川村立鮫川小学校長 大塚 欣之

新任校長として赴任するにあたり、4月最初の職員会議で何を話そうか悩んでいるとき、ある先輩から「最初の話は簡単にして、赴任した学校にはどんな特色があるのか、どんな課題があるのか、地域の願いは何なのかを理解してから、具体的な学校経営方針を示した方がいいよ。」とアドバイスをいただきました。結局、いろいろ悩んだ結果、校長としての初めの言葉だからと自分の少ない知識から学校の経営方針をそれなりに話したのですが、今考えると、先輩の話の通り、どの学校にも当てはまる一般的な話になってしまい、鮫川小の実態に合った内容ではなかったように思います。

それから2か月が過ぎ、学校と地域の実態がようやく見え始めてきた今、鮫川小の一番の特色は「さめがわ学」ではないかと思っています。

鮫川小では、地域の特色を生かした様々な体験活動を中心とした学習を通して、地域への愛着を深め、自分の生き方について考える学習を行っています。この「さめがわ学」には、多くのボランティアティーチャーと村の地域コーディネーターに積極的に関わっていただいています。先日行った顔合わせ会では、10名を超えるボランティアティーチャーの方と、村のコーディネーター、教育委員会担当者、そして全職員が一堂に会し、今年度の「さめがわ学」の進め方を確認しました。鮫川村は人口3000人余りであり、過疎化が問題となっています。そんな中、地域の方が語っていたのは、「子どもたちが将来鮫川村に残るかどうかではなく、たとえ鮫川から出ても、故郷を誇りに思い、心が鮫川とつながっていてほしい。」という願いでした。地域の皆さんの鮫川への愛情と子どもたちへの熱い思いに触れた思いがして、感動しました。今、私は、校長として、子どもたちが鮫川村に愛着をもち、そして自分はどのように生きていくべきかを考えるキャリア教育の機会として、「さめがわ学」に重点的に取り組む必要性を感じています。このことは、地域の実態を踏まえた具体的な学校経営方針として、先生方にお示ししたいと思っています。

東西しらかわ小学校長会の皆様には大変にお世話になりますが、よろしくお願ひいたします。